保育園の自己評価・考察・課題　（2023 年 3 月末）

● 職員の自己評価から、考えること

2022年度、ヒッポ保育園の自己評価について
今年も 3 月に、全職員に、自己評価チエックリストを配り、それぞれ各自で、自分の保育を見直すようにしています。1 年に 1 度、このような機会があることは、保育の質の向上には必須のことです。また、職員の自己評価と、保護者アンケートの結果を鑑みて、ヒッポ保育園としての、自己評価をし、それを、今後の課題へと、繋げていくことが大事であると考えます。

2023 年度の 5 月に、1 ヶ月をかけて保護者様との個人面談を開く予定になっているため、そのときの情報収集と、保護者がどのような子育て感を持っているかを把握しておきたいという意図もあり、保護者アンケートをとりました。
その保護者アンケートの結果を参考にし、かつ各職員の自己評価を見て、ヒッポ保育園としての自己評価をしました。
保護者は、年々若い世代になっていると感じます。その為、子育ての経験が浅く、子どもの成長とともに関わり方が変わるという事が、解っていないというのが、現実であると思います。また、解っていないことがわかっていない！ その為、自分の子育てに対しての迷いや、問題意識等もなく、「どうしたらいいのか？」という発信がないので、私達も保育園での子供たちとの関係づくりで日々が過ぎていくように思います。しかし、実は、保育園の方から、「・・・どうですか？」 と尋ねたり、問題を提起すると 「・・・じつは、こまっているんです・・・」という保護者の本音が聞けたりもします。
発信がないのは、子育てに対して、将来の展望がわからず、その時、その場の子どもの姿に翻弄されていて、どうしたらいいのだろう？ と考える余裕が持てないのが現実なのかもしれません。このように、考えますと、保育園の方から、様々な発信をして、情報を提供していくことが、今の若い保護者にとって、必要なことではないかと考えます。
活字離れの世代の保護者でもありますので、今の時代に合った伝え方や、保護者との距離取り方など、工夫していくことも必要になってきたと思います。

以上のようなことを考慮し、次は職員の自己評価から考察していきたいと思います。

職員の自己評価チエックの結果より
職員の自己評価を終え、各職員との面談を実施しました。
以下のことは、毎年感じる事であり、永遠の課題でもあると思います。
保育士は、それぞれ、各自の保育感を持っています。保育感が違う職員間同士の不協和音を、どのように調節し、改善していけばいいのか、とても、難しい問題です。

しかし、大事なことは、やはりコドモファーストであるということ。
職員間の不協和音は、子供たちにとって良くない人的環境という事。
それぞれが、反発し合うのではなく、互いにその考えを受け止め、理解しようと努力することが必要で、互いが、人として、成長し合う機会ととらえて欲しいと思います。

保育士ひとりひとりが高い専門性と豊かな資質を持つことは必至なことですが、個々の力量の向上にとどまらず、保育士集団としてのまとまりと、それに伴う保育力の高まりが必要です。職員間のチームワークをよくしていくためにも、職場内で、いろいろな形の話し合いの場を作る事、話し合える職員間の雰囲気作りを心がける必要があります。

● 保育園としての自己評価と、今後の課題

ここ数年コロナ禍の時代で、保育活動に、何らかの制約があり、今迄と同じように考えていくことが難しい現状です。このような社会現象の中で、保育園として質実ともに生き延びるためには、やはり、保育の質が大きく左右するのではないかと考えます。あえて保育園という場に残り、子供たちと関わる保育士の質は重大な要素です。そのためには、私達が、現状に甘えることなく、自己を厳しく見つめ、社会人として、保育人としても、切磋琢磨して、研鑽を積まなければなりません。そして、自分の保育感にとらわれるのではなく、今、目の前の子どもの現実をしっかり見定めてその視点から、保育を考え、保育を展開していくことが必要であると考えます。

そして、子供だけではなく、その保護者とどのようにかかわっていくかということも、とても重要な問題です。今の若い保護者が、「子育てを知らない」「子供の成長・発達を、正しく見ることが出来ない」問題を、保育の現場から、どのように発信し、導いていけばいいのかを、今の時代に合った方法を、考える必要があります。
私たち、保育士は、保護者の子育てのよきアドバイザーでなければならないということは、自覚してはいるものの、上から目線のアドバイスではなく、保護者の視点にたって、保護者に寄り添った「支援」を保護者は、求めているのではないだろうか？と、改めて、自分自身を振り返ります。
保育の質の向上や、子どもの成長への手助けはもちろんのこと、保護者や、さらには地域との連携、また子育て全般を考えて、どのような「支援」 をしていくべきなのか？

私たち保育園、保育士は、幼児教育の見地からだけではなく、幼児福祉の面からも、「支援」という、その社会的役割をしっかり認識しておくことも、私達に課せられた任務かもしれません。

① 保護者、地域との連携をどのように強めていくか？
② 忙しい就労条件下で、自己を研鑽すべく時間をどのように確保すればよいか？
保育園外での研修会参加の保障
保育園内での研修会、研修時間の確保
研修後の保育実践の確立

園長として

保育士ひとりひとりが高い専門性と豊かな資質を持つことは大事であり、これは保育園の永遠の課題でもあります。が、個人の力量の向上にとどまらず、保育士集団としてのまとまりと、それに伴う保育力の高まりも、重要なことです。
職員間のチームワークをよくしていく為にも、色々な形での話し合いの場を作る事、話し合える職員間の雰囲気作りをしていくことが、必至です。
職員を育てていくことが、園長として課せられた重要な任務です。その為にも、園長自身が日々研鑽に努めなければなりません。